

研究主題

## ともに考え、ともに高める

～ICTを活用した協働的な学びの実現～

### I 研究主題について

#### 1 主題設定の理由

##### (1) 本校児童の実態

本校には、素直で素朴であり、教師の話を一生懸命聞くことができる児童が多い。しかし、学習に対して苦手意識が強く、どう学習したらよいか分からないために、学習に取り組む前から諦めてしまう児童が少なくない。また、学校に足が向かず、休みがちになってしまう児童の姿も見られ、みんなと同じように与えられた課題を前向きに取り組む姿はあまり見られない。

##### (2) これまでの研究から

本校は、「ともに考え ともに高める」を研究主題として、なかまなビジョンを主軸にし、デジタル教科書やタブレットを活用した努力点研究に取り組んできた。1年次（令和3年度）は、自ら課題を見付け、自ら解決することができる児童の姿を目指し、「ICTを活用した個別最適化された教科学習」をサブテーマとした。導入の場で動画や画像を提示したり、考えたり調べたりする場でタブレットを活用させたりしたことで、児童は学習への関心をもち、課題解決へ向けて進んで学習に取り組むことができるようになった。

本年度は、自分の考えをもち、友達と話し合ったり教え合ったりすることで、自分の考えを広げたり深めたりすることができる協働的な教科学習を目指す。協働的な教科学習を実現するためには、児童が自分の考えを整理して友達に伝えたり、友達のさまざまな考えを知ったりすることが必要である。そこで、考えを整理しやすくしたり、さまざまな考えを効率的に知ることができるようにしたりすることができるタブレットを活用することが有効であると考え、タブレットの活用を手立ての主軸として研究を行う。そして、児童の考えを広げたり深めたりすることに有効なタブレットの活用場面や方法について明らかにしていく。そうすることで、「ともに考え、ともに高める」ことができる児童を育成していきたい。

目指す児童の姿	
1・2年生	考えが伝わるように友達に話したり、友達の考えを聞いて理解したりすることができる。
3・4年生	考えの根拠や考え方を明確にして友達に話したり、友達の考えを聞いたたりして、自分の考えを見直すことができる
5・6年生	考えの根拠や考え方を明確にして友達に話したり、友達の考えを聞いて、複数の考えをもったり、より具体的な考えにしたりすることができる

※ 児童個人の実態に合わせ、目指す姿は変動してもよい。

## II 研究の内容

### 1 努力点研究の目的

- ・ 授業研究を通して、児童の学力を向上させる。
- ・ 校内研究を通して、教師の授業力向上を図る。

### 2 手立てについて

自分の考えを広げたり深めたりすることができる協働的な教科学習を実現するために、タブレットの効果的な活用場面や活用方法を検討し、手立てとして取り入れる。例として、以下のような場でのタブレットの活用が考えられる。また、自分の考えを広げたり深めたりすることができるようになると考えられれば、タブレットの活用以外の手立てを加えても良い。

#### (1) 自分の考えを整理する場での活用

初めの考えをもたせやすくするような導入を工夫し、自分の考えが友達に伝わるように考えを整理しやすくする工夫をすることで、一人一人が自分の考えをもつことができるようになると考える。そうすることで、友達と話し合ったり教え合ったりする活動を充実させることにつなげることができると思う。また、一人一人の学習状況に応じた個別学習や個別に行う調べ学習などを工夫することも、教え合いを活性化させることに効果的であると思う。

#### (2) 友達と話し合ったり教え合ったりする場での活用

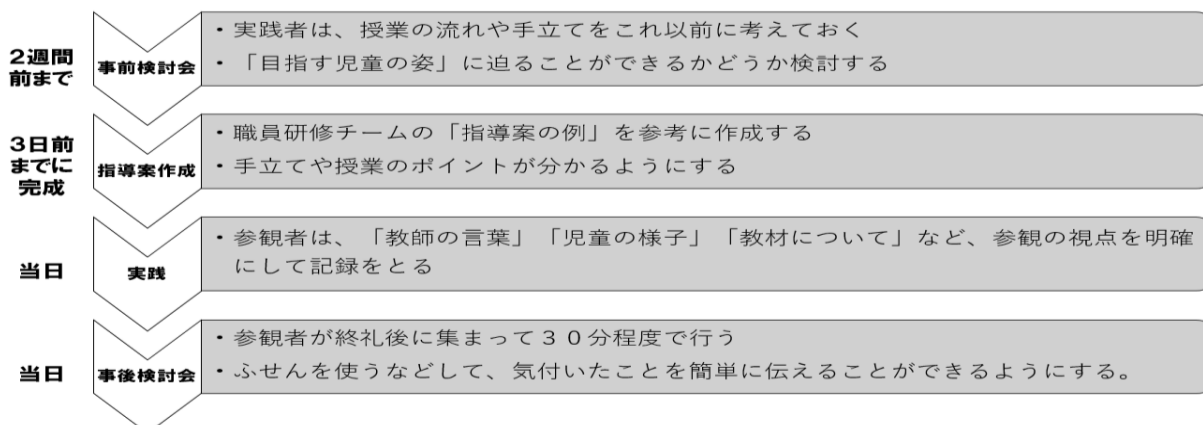
自分の考えを視覚的に伝えることができる工夫をしたり、複数の考えを比較しやすくする工夫をしたりすることで、友達の考えを理解しやすくなり、考えを広げたり深めたりすることができるようになると考える。

## III 研究の方法

### 3 授業実践

#### (1) 授業実践

- ・ 算数科で一人一実践を行う。
- ・ 事前検討会は、指導案作成前に学年内で必ず行う。
- ・ 事前検討会で出た考えは、他学級の通常の授業にも取り入れ、その様子を実践者に伝える。(実践者が他学級で授業を行ってもよい。)
- ・ 指導案を作成し、学年内で内容を確認した上で、全職員に3日前までに配付する。
- ・ 他学年の実践でも、積極的に参観するようにする。
- ・ 実践を振り返るために、授業の様子をビデオ録画してもよい。
- ・ 事後検討会は、実践日の終礼後に学年を中心に参観者で行う。(30分程度)
- ・ 「事後検討会の進め方」(後日配付)に沿って行う。

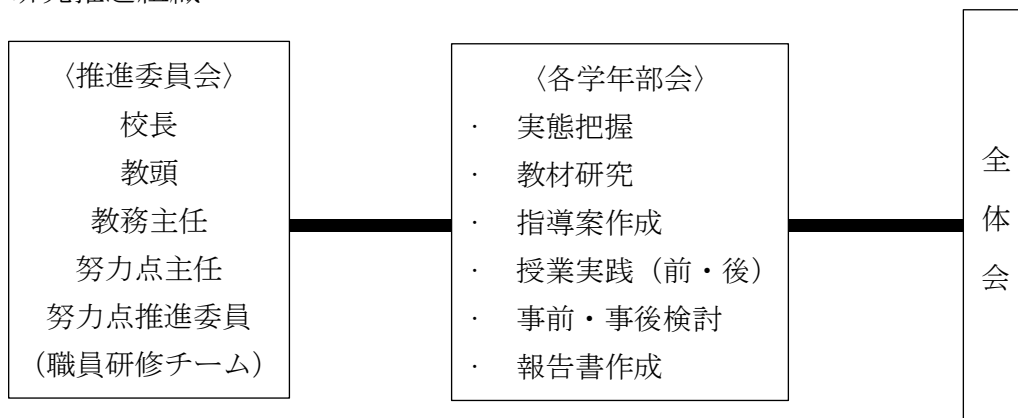


- ・ 学年内で、前後期に分かれて行う。(前期)5月～7月、(後期)9月～12月)
- ・ 5月9日(月)までに、実践の時期と単元を決定する。
- ・ 同じ単元で実践を行ってもよいが、本時の内容は異なるものにする。
- ・ 授業の中でタブレット(指導者用、学習者用のどちらでも良い)の活用を手立ての一つとする。
- ・ 参観者は、できる限り45分間を通して参観し、「教師の言葉」「児童の様子」「手立てについて」などの視点を明確にして記録をとる。
- ・ 「指導案」「ワークシート」は、共有フォルダ内にデータで残し、今後の実践に活用できるようにする。
- ・ 実践の様子は学年だよりと学校ホームページ(学期末)に掲載し、保護者に知らせる。

## (2) 全体授業

- ・ 学校全体で一人、実践を行う。(10月27日(木)3限)
- ・ 指導案(略案でもよい)を作成し、全職員に3日前までに配付する。
- ・ 事前・事後検討会については、全体会で行う。

## 4 研究推進組織



- ・ タブレットやデジタル教科書等の基本的な使い方や活用方法は、GIGAチームと連携して伝達していく。
- ・ 各学年のGIGAチーム所属者が、学年内のタブレットを整備し、学年内での指導法の共有を中心となって行う。

### <推進委員会>

- ・ 努力点基本方針を確立する。
- ・ 各学年で目指す児童の姿を考える。
- ・ 実践上の問題把握と解決方法の検討をする。
- ・ 各学年の実践状況を相互に把握する。
- ・ 次年度の努力点基本方針を計画する。

### <学年部会>

- ・ 実践する単元を決定し、教材研究をする。
- ・ GIGAチームからの提案内容を共通理解する。
- ・ 実践の事前・事後検討会を行う。
- ・ 中間・最終報告書を作成する。

<全体会>

- ・ 努力点基本方針を共通理解する。
- ・ 各学年の前期実践の様子を踏まえ、代表授業の検討をする。
- ・ 代表授業について、成果と課題を把握する。
- ・ 中間・最終報告会で、実践の成果と課題を把握する。

5 研究推進計画

実践	月	日	内容
前期	4月	12日(火)	① 推進委員会
	4月	15日(金)	② 全体会(研究主題、方法について提案) ※時期の報告は5月9日(月)まで
	5月	9日(月)	③ 学年部会(実践時期・単元の決定、教材研究)
	6月	2日(木)	④ 学年部会(教材研究)
	6月	30日(木)	⑤ 学年部会(教材研究)
後期	9月	1日(木)	<b>中間報告書提出日</b>
		2日(金)	中間報告書の配付
		12日(月)	⑥ 学年部会(教材研究)
	10月	6日(木)	⑦ 全体会(全体授業事前検討会)
		27日(木)	<b>全体授業(3限)</b> ⑧ 全体会(全体授業事後検討会)
	12月	5日(月)	⑨ 学年部会(教材研究)
	1月	10日(火)	<b>最終報告書提出日</b>
		11日(水)	最終報告書の配付
		12日(木)	⑩ 全体会(報告会「一年間の実践を振り返って」)
	2月	2日(木)	⑪ 推進委員会(今年度の反省と次年度に向けて)
	3月	10日(木)	⑫ 推進委員会(次年度案の検討)

※ 『中間報告書』では、前期実践の内容と成果、後期実践への課題について学年で1ページ以上(A4)にまとめる。

※ 『最終報告書』では、後期実践の内容と成果、年間の振り返りについて学年で1ページ以上(A4)にまとめる。